



元茨城県土木部総括技監

大島 恭司 氏

大島 恭司（おおしま きょうじ）
1950年6月26日生まれ。70歳。74年に県庁へ入庁。つくばまちづくりセンターではつくば整備部長を務める。その後、都市整備課長などを経て、2011年、総括技監で定年を迎える。趣味は山登り（最近は宝篋山や吾国山など）とゴルフ。信念は「すべて前向きに考える」。



過去の災害も検討し後世に伝承

大島 大水害の経験から、想定外の自然災害は絶対に起きる。と曰頃から職員に言つていました。そして実際に被災した時に重要なのが迅速な判断です。応急復旧工事を素早く行うには請書しかないと思い、3・11当日には監理課付で請書による随意契約の通知を出しました。県建設協会にも災害応急復旧工事を優先してもらい、通常工事は3月13日付で事故廻越として処理することにしたのです。

後藤 災害対応は総力戦です。

土木の力なしではありません。

震災の数年前、行政改革の取り組みにより出先事務所の再編成が検討されました。土木事務所もその対象で、12事務所から5事務所に減らす案がありました。しかし、地元を守るのは地元との考え方から、当時の渡邊一夫土木部長を筆頭に、減らした危機管理ができないといふとを訴え、各方面へ懸命に説得しました。結局、今では名を変えて上末・工事事務所が置かれていますが、各エリアに事務所を残していくおいて本当に良かった

大島 大水害の経験から、想定外の自然災害は絶対に起きる。と曰頃から職員に言つていました。そして実際に被災した時に重要なのが迅速な判断です。応急復旧工事を素早く行うには請書しかないと思い、3・11当日には監理課付で請書による随意契約の通知を出しました。県建設協会にも災害応急復旧工事を優先してもらい、通常工事は3月13日付で事故廻越として処理することにしたのです。

後藤 災害対応は総力戦です。

土木の力なしではありません。

震災の数年前、行政改革の取り組みにより出先事務所の再編成が検討されました。土木事務所もその対象で、12事務所から5事務所に減らす案がありました。しかし、地元を守るのは地元との考え方から、当時の渡邊一夫土木部長を筆頭に、減らした危機管理ができないといふとを訴え、各方面へ懸命に説得しました。結局、今では名を変えて上末・工事事務所が置かれていますが、各エリアに事務所を残していくおいて本当に良かった

後藤 日頃から行政と業界が信頼関係を深め、強い結びつきを構築しておることは、円滑な事業推進

が、将来の発展を支える基盤づく

りであり、最終的には農民の皆さ

で守られるのか。日頃からきちんと建設業を育成しておかなければな

ど思います。集約せず、各地に

事務所があつたからこそ、素早い対応ができるのです。現地のこと

を一番良く知っているのは、やはり現地の人です。その

土地のことを知らない人が作業に当たっていたら、復旧はもつ

と遅れていたかもしれません。

大島 災害対応で最も大切なことは、やはり現地の人です。その

土地のことを知らない人が作業に当たっていたら、復旧はもつ

</